

句集

折鶴

加藤良子

公園の木々の

艶ます春の雨

雨

麗夜の俳句談義や

真砂女の忌

この二句の季語は動かない。前句はよく自然の移り変わりを「木々の艶ます」に象徴させている。後句の「俳句談義」は「真砂女の忌」を入れて雄然現実味を深める。

良子さんの句は正統派である。

安立公彦

(序より)

故郷や父母の待ち居る夏畳

帰省子に青き海あり父母のあり

母と娘の白きエプロン初厨

長女

梅白く二十歳の髪の結ひあがり

日脚伸ぶや社会福祉の講義の日

区の保存樹桜

花びらを掃く早起きを楽しめり

娘の書展見に行く上野草青む

初孫のものを縫ひぬる良夜かな

亀鳴くや身の綻びを繕うて

金沢より加藤里路の蔵書印ありて送り来る

紙魚払ふ先祖の筆の和綴本

加藤里路、気多大社の宮司

子と祝ふ気多の大社の屠蘇の盃

悼 山本健吉先生

五月が好き緑が好きと逝き給ふ

歳時記の青葉の項や健吉忌

形代に名をしたたむる正座かな

菊の香や卒寿の父の声たしか

松山空港へ

雲の峰越えて父病む故郷へ

父へ

「なみだぼうだ」とのみの弔電蝉時雨

父乗せてゆつくり歩め茄子の馬

父の好みし甘き珈琲涅槃西風

遠くなる父の悌玉子酒

独り居の母そこに菊活けて

杖きらふ米寿の母や赤のまま

鶴一羽折りて看取りの冬灯消す

臨終の母の手握る聖夜かな

母の星父に追ひ着く天の川

思ひ出の深しや母との雛納め

還曆の夫に赤シャツ天高し

岩村

俳縁奇縁八百年や魂祭

夫に欲し酈^{れつ}縣^{けん}山の菊の水

命継ぐ夫の笑顔や日記買ふ

結び皺残るネクタイ小鳥来る

夫の亡き結婚記念日冷し酒

夫の墓地に根付きし若木春待てり

初明り夫の写真の笑顔かな

悼 西山誠先生 三句

握手できぬ師との別れや烏雲に

初七日の座敷の白き椿かな

好きな字を並べ戒名烏雲に

鷗外忌祖父のドイツの古手紙

古書匂ふ亡き人匂ふ曝書かな

大水車冬日ゆつくり回りけり

車椅子に冬日やはらか民家園

公園の木々の艶ます春の雨

朧夜の俳句談義や真砂女の忌

史料館へ和綴の古書や雲母虫

広島忌祈りの鶴を折りにけり

蒼穹の雲なき朝や原爆忌

雪搔きて朝の新聞待ちにけり

山椒の芽たたけば香る夕厨

伊予柑や伊予の父母恙なく

卒寿越ゆる父母に仕へて去年今年

著者略歴

加藤良子 (かとう よしこ)

昭和6年1月11日 東京に生れる

昭和48年 春燈俳句会入会 (昭和49年1月号より投句)
安住敦、成瀬櫻桃子、鈴木榮子、安立公彦各
主宰に師事

日本俳句会にて西山誠、小林廣芝、橋爪隆各
先生の指導を受ける

平成2年 俳人協会会員

平成6年 春燈燈下集入集 (同人)

春燈叢書第186編

句集 おろづる
折鶴

2017年4月20日 初版

定 価：本体2800円 (税別)

著 者 加藤 良子

発行者 奥田 洋子

発行所 本阿弥書店

東京都千代田区猿樂町2-1-8 三恵ビル 〒101-0064
電話 03(3294)7068(代) 振替 00100-5-164430

印刷・製本 日本ハイコム株式会社

© Kato Yoshiko 2017
Printed in Japan

ISBN978-4-7768-1273-9 (2991)